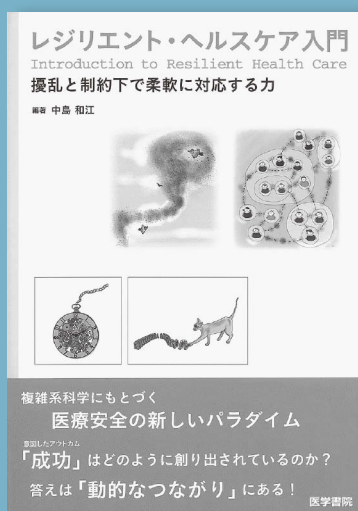


書評

レジリエント・ヘルスケア入門

擾乱と制約下で柔軟に対応する力



- 編著 中島和江
- 定価 本体 3200 円＋税
- 判型 B5
- 頁数 224
- 発行 医学書院

評者

がん研究会有明病院
副院長・看護部長
清水多嘉子

「レジリエンス」に着目した
先取り型安全管理の考え方を示す増え続けるルールや
マニュアルの海の中で

日々報告される医療安全レポートを見て、なぜこの大事な手順を省略してしまったのだろうかと思うことが多々ある。一方で臨床の場はイレギュラーなことの連続であることも十分理解している。薬剤認証をしようとしたところ他の患者に声を掛けられるようなことは日常的であり、それにより認証作業を失念してしまう。

それでも私たちは統一ルールを作り、それが守られなかったことを反省し、原因を分析してきた。これを本書では Safety-I 「後追い型安全管理」とし、「失敗から学ぶ方法」と説明している。

ルールにより医療安全体制が劇的に整えられてきたことは事実でありこれまで大変助けられてきた。しかし、増え続けるルールやマニュアルの海の中で溺れそうになってきているというのもまた正直な思いである。

変化に対処する能力「レジリエンス」

そこで本書『レジリエント・ヘルスケア入門』では、Safety-II の考え方を登場させている。これは「先取り型安全管理」であり、「日常的にうまくいっている状況から学ぶ方法」と説明されている。

「レジリエンス」とは変化に対処する能力という意味を持つのである。私はゴムボールがへしゃげる様子を頭に描いた。さまざまな圧がかかってもボールを破かないで保つ機能は、実は私たちの日常のやりくりの中にも存在しているというのである。

現場で行われている
見事な連携と調整

本書で編著者の中島氏は「時々刻々と変化する状況の中で、何事もなく物事がうまく行われていること」を「成功」として捉え、そこに注目して安全について考察している (p.2)。そして、その中で示されている日常場面を表した文章を見ると、現場では日々どれだけ見事な連携と調整が行われているかを改めて実感することができる。

本書はこの状況に着目しており、第6章で芳賀繁氏は、「決められたことを決められた通りに行うだけで本当に安全は保てるのだろうか。(略) 1 万回のうち 1 回失敗して事故が起きたとしても、残りの 9999 回は成功していたのではないか。その成功は決められたことを決められた通りに行ったからなのか、それとも変動する外部条件に柔軟に対応することで達成されたものなのか」(p.79) と投げかけている。

ダメなことだけに着目して自分たちの行動を振り返るよりも、よいところに視点を向けて医療事故防止に取り組む方が、何倍も心が安寧である。本書はそうした取り組みの理論的背景や実践例を示してくれる。